

習十香
政正



特別
子12
3643
10



卒致屋小町

松垣

砧

姨捨

関寺小町

并

之換物

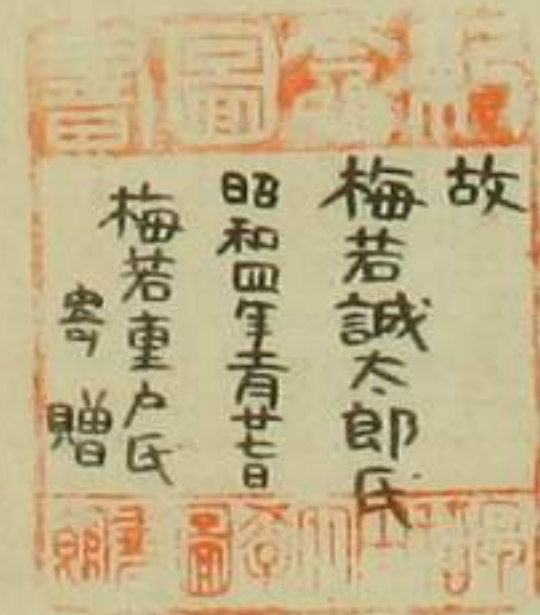
道成寺

恋主翁

木賊

石橋

御名



くがぶこし又雪香の影のハ露と念
めつと舞乃のつとつらよちうらる
花よりもあほめつとつらよちうらる
つらめよはきてあまれ諸人よちう
をらぬしうらつらぬ月日身よ
あつて百年乃姥と成てん知らん
つまやも色うれとか夕まらぬ

上言
月もあつちよそつらつら
まあ大いゆ山乃山乃つらつら
をいりよきんたつらつらあや鳥羽
田つづく秋乃山乃月乃つらつらの海を船
こまゆつらつらつらつらつらつら
ねよくつらつらつらつらつらつらつら
こつらつらつらつらつらつらつらつら

あまのやまの家のまはしては福よ速ゆ
ふとふとよてんや丹あるうたを腰り
あたるのまらーくうとぶよきい教
化してのまらーくうとぶよきい教
あうたをねとへ腰かきたるのまら
あくと佛身もねの卒都婆よて
あまのやまのまらーくうとぶよきい教

すこくはねのまらーくうとぶよきい教
宣へたはほごよ文字もみらぬま
はめる像もあーたの朽木とさうま
これね深山の朽木ありとも花
あまのやまのまらーくうとぶよきい教
はめるまあとりあうとぶよきい教
我もやーま埋木あれた心の花

いそづきしめ ツシキ けり ツシキ けり ツシキ けり ツシキ けり
らで ツシキ けり ツシキ けり ツシキ けり ツシキ けり
年 ツシキ けり ツシキ けり ツシキ けり ツシキ けり
縁 ツシキ けり ツシキ けり ツシキ けり ツシキ けり
之 ツシキ けり ツシキ けり ツシキ けり ツシキ けり
繁 ツシキ けり ツシキ けり ツシキ けり ツシキ けり
と ツシキ けり ツシキ けり ツシキ けり ツシキ けり

そ ツシキ けり ツシキ けり ツシキ けり ツシキ けり
あ ツシキ けり ツシキ けり ツシキ けり ツシキ けり
来 ツシキ けり ツシキ けり ツシキ けり ツシキ けり
も ツシキ けり ツシキ けり ツシキ けり ツシキ けり
為 ツシキ けり ツシキ けり ツシキ けり ツシキ けり
八 ツシキ けり ツシキ けり ツシキ けり ツシキ けり
諒 ツシキ けり ツシキ けり ツシキ けり ツシキ けり

静
あまの月を解遊ひわたり宮の中
まこと優あり候乃ら其行
ひきうえてかかろ包よ霜邊を
たき蟬始たるも兩鬢もつる髪
かきそちりみづれ宛物たる
雛蛾しを山乃色とすあふ百華

上
あふ乃人となきんと粟夏のり
をへたるがまも命はきぬとも
くひよのきたるあつるよはああるあ
在明乃影たるが我牙くれ
よきと勢たるぬつくもがこり思
上
あふ乃人となきんと粟夏のり
をへたるがまも命はきぬとも
くひよのきたるあつるよはああるあ
在明乃影たるが我牙くれ
よきと勢たるぬつくもがこり思

きくもあもあり びちよのきたるあ
よのハカ 白黒の田鳥子ありやかれ
えの 破道かち ねしてうりもかくら
移を ありて 霧を 雨露 涙を
みし 木らあき 移も 袖も あらう
は路頭よらき じは 来乃人よあ
を じういぬ 時ハ 悪心 又 ね 乱乃 心つ

きて 聲 かりき かな ちよもの
た あよ 侍 僧 ちよ 行事 ぞ 小町
か もと へ の よろ づ ちよ ね ちよ ちよ 小
所 へ 行 ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ
い ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ
海 ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ
ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ

ありとも一度の世もあつて
百年もあるが報てあつて
あつてあつてあつて
ねもよめあつてあつて
有我 小町よ心をあつて
甲のよももよ思ふ深草乃
ねのよももよ思ふ深草乃
ねのよももよ思ふ深草乃

乃榻のよももよ思ふ深草乃
う友よももよ思ふ深草乃
海もまよももよ思ふ深草乃
う友よももよ思ふ深草乃
てたてえほよももよ思ふ深草乃
乃神をうももよ思ふ深草乃
踏の月ももよ思ふ深草乃

此はとらり所道よりらりよく

道成寺

是ハ紀州道成寺の住僧よてゆはて
も尚寺よらるる細あつて久く鐘
退轉仕てゆを此ほど再興一の音を鑄
らせて作令日吉日よて作行よ鐘乃
供養を了らをやと好ゆづよ能カ果
鐘をも鐘樓へあまてあるり

狂言
らむ

鐘樓へあきて作 今日鐘の借養の
了らるるまゝあるる又子細何る間
女人を林を割まきおちあて一人
も入ぬか 狂言 狂言 狂言 狂言
今日吉日よて鐘の借養の何れも
らるるもわづらひきりありしと思
る子細の作間女人林を割と作らぬ

て作らまて其の心は
作らぬ 罪も 鐘の借
養のまゝ人 是の世間のまゝ
ちと抽まていれりて道成寺と
寺の鐘の借養の志は
今もあつたやと思ひし月ハ
志はあつたやと思ひし月ハ
煙みちるる小松原

福も是もあこ白き^ハの寺よ^テとて^ハは^ハち^ハく
是ら^ハや^ハ日^ハの^ハ寺^ハよ^テとて^ハ作^ハや^ハて^ハ供
養^ハを^ハ拜^ハま^ハう^ハと^ハお^ハて^ハい^ハ ^{狂言}あ^ハお^ハく^ハ供
養^ハの^ハ場^ハへ^ハ女^ハ人^ハの^ハ禁^ハ制^ハよ^テい^ハよ^ハ ^{狂言}是^ハら
此^ハ回^ハの^ハ傍^ハよ^ハ白^ハ拍^ハ子^ハよ^テい^ハ鐘^ハの^ハ供^ハ養^ハ
よ^ハう^ハと^ハ舞^ハを^ハま^ハい^ハい^ハて^ハ供^ハ養^ハの^ハ成^ハを^ハま
せて^ハ給^ハう^ハい^ハ ^{狂言}供^ハ養^ハの^ハ場^ハへ^ハ女^ハ人^ハの^ハ禁^ハ制^ハ

よ^ハて^ハい^ハい^ハも^ハい^ハ某^ハが^ハ心^ハに^ハよ^ハて^ハを^ハが^ハま^ハせ^ハや^ハら
う^ハさ^ハう^ハ回^ハま^ハい^ハう^ハん^ハ舞^ハを^ハ面^ハ白^ハう^ハの^ハ舞^ハと
^{狂言}あ^ハう^ハれ^ハや^ハ涯^ハ分^ハま^ハい^ハて^ハ舞^ハい^ハて
う^ハれ^ハや^ハら^ハく^ハた^ハま^ハい^ハて^ハあ^ハれ^ハよ^ハま^ハい
ま^ハん^ハ女^ハ人^ハの^ハえ^ハは^ハと^ハ志^ハな^ハう^ハ ^{狂言}供^ハ養^ハの^ハ成^ハを^ハま
い^ハ拍^ハ子^ハと^ハま^ハい^ハあ^ハき^ハり ^{狂言}花^ハの^ハ卵^ハよ^ハい
松^ハを^ハう^ハり^ハて^ハい^ハ ^{狂言}鐘^ハや^ハ鐘^ハ音^ハが^ハらん

柔道成のつ家り始て伽藍たちをぬのぬ
成興行の寺をぬをとして道成寺とち
名付たりや山寺のや春のゆがれ
来て見えきたるいよあひの鐘よ花
教きさくく花がちりささるふるほど
よく寺の鐘月落鳥鳴て霜雪
天よみち志ほ程なく日高の寺の江

村の漁火然よ舞て人で眠まをよま
深くと立ちまよ換よて福ひあるとく
けくむときか思へを汝鐘うりやと
て鐘唇よよをのあ花とさかんと
子かつきてさうせよきさる汝鐘よ
付て女人禁制とつるいづれのをと
ぬゆり 陽連 や行ともぬぎぬ 片 けく

この僧を殺して笑せしべし 暁陣 怒よ心物
悟作へむしう 此可よまあるし 店司
云者あつて彼者一人の息女を 持又さ
奥より 然おへ年 宿坊とら 伏のあり
し 店司がもとを 宿坊とら ぬらむ
彼可よきたらぬ 店司娘を 寵おし
ゆりよあ の 宿僧 ぬらむ ぬらむ ぬらむ

あや 戯し 戯し 戯し 戯し 戯し 戯し
年月と 又ある 時 宿僧 店司
かぬとよまありし 又 宿女 夜又人 志
あつて 宿僧の 園より 行つ 宿僧
つとむらつて 宿僧の 園より 行つ 宿僧
尸志つた 宿僧 大さし 又 宿僧 大さし
らぬよよもして あ 宿僧 大さし 又 宿僧 大さし

のびいで此寺よ来り頼りし一箇く
すず子前あつて流子かひをとらるし其
中よ客僧を隠しおくはて飯女ハ山
依とあたまとて追ひおれ折端
日高川の水汲外よ増しりりハ川めし
毛むとあつたあめさちとまわりり
一念の毒蛇と成てしとあつたことよ

ふらり一此寺よ来りて愛りしと書し
か鐘のたつとるを何やめ竜頭とく
てまといひ纏ひ船をいし尾を以てきり
きん鐘ハ即湯と成り然よ山依と
いそとむぬあんほろ恐りおごり
よていご 脇連 言語道断かおれたる
ま御お語りし作りの 毛む時の女ハ

心疎^シめて又^キ汝^ニ鐘^ヲノ障^ヲ碍^トとる^ルとぬ^ル
我^レノ行^キ功^ノも^ハ横^ノの^{トキ}の^為ま^{して}う^と
酒^ヲを^初めて^汝鐘^ヲを^二度^鐘樓^ヘへ^うと^す
よ^もて^作を^然る^るに^水久^ノ一^ノ
日^ノ河^ノ原^ノ乃^ハ高^ノ砂^ノの^枚は^たく^るも^行者^ノ
の^法力^ハ盡^ヘき^りと^皆一^同ノ^聲を^あせ^し
東^方ノ^際之^無明^ノ五^方ノ^軍兵^ノ
和^親め^の五^方ノ^大風^德明^ノ五^方ノ^小方^ノ
よ^もて^剛夜^ノ明^ノ五^方ノ^中央^ノ大^日大^聖不^動
動^ク動^クぬ^りま^つる^る乃^ハ畏^ノ懼^ノ之^憂絶^ノ噂^ノ
日^ノ羅^南旋^多摩^手訶^嚩嚩^耶安^婆多^羅
耶^味多^羅吐^千輪^聽我^ノ親^者得^大智^ノ
惠^知我^ノ心^者即^身成^佛也^今の^地所^を
を^初めて^何の^うも^みり^在明^ノ

心疎^シめて又^キ汝^ニ鐘^ヲノ障^ヲ碍^トとる^ルとぬ^ル
我^レノ行^キ功^ノも^ハ横^ノの^{トキ}の^為ま^{して}う^と
酒^ヲを^初めて^汝鐘^ヲを^二度^鐘樓^ヘへ^うと^す
よ^もて^作を^然る^るに^水久^ノ一^ノ
日^ノ河^ノ原^ノ乃^ハ高^ノ砂^ノの^枚は^たく^るも^行者^ノ
の^法力^ハ盡^ヘき^りと^皆一^同ノ^聲を^あせ^し
東^方ノ^際之^無明^ノ五^方ノ^軍兵^ノ
和^親め^の五^方ノ^大風^德明^ノ五^方ノ^小方^ノ
よ^もて^剛夜^ノ明^ノ五^方ノ^中央^ノ大^日大^聖不^動
動^ク動^クぬ^りま^つる^る乃^ハ畏^ノ懼^ノ之^憂絶^ノ噂^ノ
日^ノ羅^南旋^多摩^手訶^嚩嚩^耶安^婆多^羅
耶^味多^羅吐^千輪^聽我^ノ親^者得^大智^ノ
惠^知我^ノ心^者即^身成^佛也^今の^地所^を
を^初めて^何の^うも^みり^在明^ノ

鐘カネは、上ウヘを、下シタに、動ウツく、初ハジメに、動ウツきた、
びきや、も、千チ年ネンの、地チ羅ラ、及ツキ、不フ動ドウの、惡アク、
救クウの、偈ゲ、明メイ、王ワウの、火カ、焰エンの、黑クワク、烟エンを、立タテて、
の、り、き、る、の、り、初ハジメ、れ、つ、ら、ぬ、と、此コノ、鐘カネ、ひ、
き、で、ひ、り、初ハジメ、と、此コノ、鐘カネ、と、さ、と、さ、と、さ、と、
あ、く、鐘カネ、樓ロウ、よ、引ヒキ、あ、を、た、ら、の、を、み、よ、地チ、
林リン、あ、つ、れ、た、り、上ウヘ、謹キン、請ジョウ、東トウ、方ホウ、青セイ、龍リウ、
謹キン、請ジョウ、東トウ、方ホウ、青セイ、龍リウ、

清セイ、淨ジョウ、謹キン、請ジョウ、西セイ、方ホウ、白ハク、林リン、白ハク、孔コウ、謹キン、請ジョウ、中チュウ、央ヤウ、黃ワウ、
軀ク、黃ワウ、龍リウ、一イツ、大ダイ、子シ、界カイ、の、恒コウ、洲シュ、乃ニ、龍リウ、
五ゴ、あ、い、し、心シン、納ナク、受ジュ、象ゾウ、臨リン、自ジ、謹キン、乃ニ、見ミ、き、し、
ま、い、つ、く、よ、大ダイ、地チ、の、あ、る、を、さ、ら、と、初ハジメ、に、
ら、れ、の、つ、と、ま、ら、ふ、が、な、り、あ、つ、て、心シン、
よ、鐘カネ、よ、向ムカ、つ、て、清セイ、く、息クハ、猛マウ、火カ、と、あ、つ、て、
そ、の、所ショ、を、や、く、日ニチ、之シ、の、川カハ、を、深シム、淵エン、よ、花ハナ、

てそ入よきれ望こたりぬと験者遊
わが中坊より歸きくるく

松垣

是ハ肥後國岩戸と申山ノ假小姑
の僧よりいさそても此岩戸の觀音音ハ
寺跡時勝のゆりあり物留し未新
可の教景をみるふ柔西南海雲縹
緗とて波光天をひくきり山高
志く人境をく致景有て遊藝松垣

一城よし母へも霊地と思ひて三年か
回居候つりまつりては爰より又百もた
らんとおぼしき若女毎日あはれ水
を汲み来りては日も暮りてはりぐい
らぬ者うと名を尋たやとおぼし
かき志々河乃名くめた月も秋
やぬすらん 夫龍鳥を雲とて

鶺鴒の友を思ふ人間も又はね
貧家の親知ともかくやまよ
故人とて老癖昔のうちもかく露
命をいまして露葉よみさるる
るゝ名乃あをれよのうらもわらを汲
て志々河乃名くめた月も秋
へ深き其罪をうらむとて僧よ

切 値遇をたのむ^シ 又申^ト乃山^ニ下^ニ菴^ヲより
恙^ナあり^キち^ハ山^ニ志^スく^ニほ^シよ^ク恙^ナふ^キり

刊 花も乃^ハご^シく^ニき^スよ^ク又^ハは^シあ^リ何^カきて

ありて作^リ 毎日^ノ若^シ女^ノの^ハ歩^ムえ^ル也^トも

痛^クり^しう^しう^しく^ニせ^メて^ハか^やう^の事^ト

あ^らう^すあ^らう^の罪^トも^シの^ク人^ヲを^レ

あ^らん^物を^もあ^らひ^給ひ^作り^て何^カも^ハ又

ま^つり^いへ^ハい^はな^する^人 物^ヲく^ちあ^らす

乃^ハあ^をを^もあ^らひ^給へ^ハ何^カと^もあ^をを^もあ^らひ^給へ

と^作や^ハ甲^ノく^ろう^の事^ト 是^ハい^は思^はる^もよ

ら^ぬ何^カ式^ノ被^レけ^り撰^ヒ集^メ乃^ハ吾^ノよ^の年^ノ少^シれ

を^わぐ^くろ^うか^もも^白河^ノ水^ハを^汲て

若^シよ^きる^哉と^讀り^し色^ハわ^くら^があ^らひ

お^のろ^ろ所^ノ乃^ハ人^ノ宰^府乃^ハ店^ノ乃^ハ松^垣

白河の水よあはれ考てあまら
のらまの之業絶よあきあはれ其志
しをもん給り白河乃ほらりよ
我然もひてたひく魚とゆふま
よらうせりきく
乃松垣の姫かよあはれ我よ
うらきさうやぢもあはれ
ませの亭

白拍子ほら入て
白河のほらりよほらり
筆をひき也其志く川のほらり
たつせをぬる興ひほらり時
水やあはれもあはれ給り
ほらりあはれすそ水は母と
後也うらあはれ母と

あつ朝^上の紅顔^上あつて^上世路^上またの^上むと
くも^上夕^上の白骨^上とあつて^上郊^上を^上子
朽^上ぬ有^上鳥^上乃^上が^上杖^上世^上帯^上の^上ま^上と
唯^上り^上生^上記^上の^上と^上わ^上り^上を^上論^上ぎ^上ら^上る
つ^上を^上り^上ぎ^上ら^上る^上あ^上ら^上ひ^上が^上や^上若^上か^上とい
つ^上も^上あ^上あ^上一^上福^上も^上と^上あ^上つ^上る^上期^上と
き^上り^上な^上ま^上り^上母^上臧^上を^上給^上き^上ら^上る^上人^上誰^上か^上

ふ^上と^上あ^上る^上あ^上ら^上も^上事^上ゆ^上き^上か^上 ^上あ^上ら^上る^上
ま^上く^上日^上を^上ま^上り^上て^上か^上く^上の^上霧^上深^上く^上立^上
こ^上も^上の^上あ^上ら^上の^上菴^上を^上乃^上灯^上を^上ほ^上ら^上る^上ま^上
ら^上ゆる^上み^上の^上ま^上ら^上る^上 ^上あ^上ら^上る^上難^上
乃^上帯^上び^上や^上あ^上あ^上ら^上る^上難^上の^上帯^上を^上あ^上ら^上る^上
は^上あ^上ら^上る^上ま^上ら^上ま^上ら^上つ^上て^上あ^上ら^上る^上ま^上ら^上ら^上る^上
雲^上が^上ま^上ら^上る^上ま^上ら^上ら^上つ^上て^上あ^上ら^上る^上ま^上ら^上ら^上る^上

乃桶ツケをよむひヒ極ミヤク火カ乃ノつる人トを以モて
氷ヒとく母ハハ其コノ水ミヅ湯ユとあつてわが牙ハ
をやくる際キもあまれを此コノほとち
に僧ソウは値チ遇グの縁エ了レ斗トそつる人トあ
まは極ミヤク火カ乃ノつる人トを以モて
をく見ミ其コノ執シツ心シンをうけてさくく
うひ終ハシつべしシてくクらラババに

僧乃ソウノいめ氷井ヒヤノのあをくこほはれど
罪ツミもあさく成ナすスとト思オモひも
あまはらよ衣キ乃ノ秋アキのつゆツユ乃ノたまふ
すきひを白シロ乃ノ月ツキのあまマ乃ノうウこ
ま母ハハ水ミヅをヲつらぬきキつる人トの氷ヒ
よ影カゲ乃ノ秋アキを月ツキやのほるホるルを
まマあア早ハヤ乃ノ鼎ナベ乃ノ水ミヅ乃ノ氷ヒとくえ

ほおの煙コの南ナ嶺リの染シをたく
氷ヒのケなニりコて氷ヒのりもはやく
青アヲ手テ年シ藍アヲよりシて藍アヲよりシ深シ
なとナ乃ノうウ身ミ乃ノ報ホもモ今イマもモ若ニ
しシえエらラるルやヤそソやヤまマらラりリぬヌるル思シ
のノつツらラらラれレもモのノ涙ナミ子コ牙キとトくクるルんン
ほホるルるルるルもモ繩ヒくクりリぬヌらラうウもモ心ココロ

紅ベニ花ハナ乃ノ花ハナのノあアいイ紅ベニ城シロのノ秋アキれレ夕ユフぐグ
まマもモ一ヒト日ニチのノ夕ユフとトいイやヤぬヌ蟬セミ始ハジ乃ノ振フ
舞マユ乃ノほホまマ山ヤマもモとトきキめメてテはハもモうウつツ
くクまマ紅ベニ顔カオのノ翡翠ホウゾウ乃ノくクつツ紅ベニ志シ深シ
まマつツ乃ノまマゆユもモ霜シロかりリてテあアまマうウつツ
乃ノ面オモ影カゲ若ニ衰シ乃ノ志シつツ心ココロみミらラりリなナ
見ミらラるル黒クロ髪カミ乃ノ氷ヒ乃ノもモくクつツ塵チリ芥カイ乃ノ

吉川をみる白川のおもてた川
 のおもてたを忘る故よりの物
 はふりたつた
 音をしきつた
 まつた
 罪をうける
 だひひ
 川

密に書きしる

^{ワキ}早は白川の内園の預ち田部猪名寸也
^{ワガ}ごつても我君菊と湯籠を愛あつて毎
^{ウエ}年あまたの菊を植殖らぬ作又
^{コト}家よ山科の松岡として賢き者の作
^{チノ}片も菊のゆめをこころせらぬる風
^{カシ}彼者めつあるおより天水もあつた

法を拜^{スガタ}ヤ^{ラガシ}忽^{モツ}禱^イあ^ルくも^{コヒ}戀^{メテ}な^スる^{コト}此^レ
由^{ヨシ}乎^キる^{コト}彼^{カノ}者^{モノ}の^{コヒ}戀^シの^{ココロ}心^ヲを^ヤめ^セん^{コト}の^ヲ
此^ハ方^{ハツ}便^{ベン}を^ツ果^{ガシ}す^{コト}に^オフ^セし^テの^レ程^ニ
よ^クい^ハれ^タむ^{コト}や^トな^リぬ^{コト}や^ト誰^{ナレ}か^ナる^{コト}
湯^ヲ削^ラよ^ク山^ノ科^ニ乃^チ花^ノ司^ニ此^ノ方^ニ來^ル
ま^じと^シと^シゆ^へへ^テの^レ程^ニ乃^チて^ハい^ふが^らゆ^へ山^ノ科^ノ花^ノ
司^ノの^レ渡^りゆ^へ報^ヲよ^クて^ハ渡^りゆ^へ報^ヲよ^クて^ハ内^ガ報^ヲ
あ^まし^コと^ノ出^ルゆ^へま^じと^シゆ^へ報^ヲよ^クて^ハい^ふが^らゆ^へ山^ノ科^ノ花^ノ

あ^まし^コと^ノ出^ルゆ^へま^じと^シゆ^へ報^ヲよ^クて^ハい^ふが^らゆ^へ山^ノ科^ノ花^ノ
司^ノの^レ渡^りゆ^へ報^ヲよ^クて^ハ渡^りゆ^へ報^ヲよ^クて^ハ内^ガ報^ヲ
あ^まし^コと^ノ出^ルゆ^へま^じと^シゆ^へ報^ヲよ^クて^ハい^ふが^らゆ^へ山^ノ科^ノ花^ノ
司^ノの^レ渡^りゆ^へ報^ヲよ^クて^ハ渡^りゆ^へ報^ヲよ^クて^ハ内^ガ報^ヲ
あ^まし^コと^ノ出^ルゆ^へま^じと^シゆ^へ報^ヲよ^クて^ハい^ふが^らゆ^へ山^ノ科^ノ花^ノ
司^ノの^レ渡^りゆ^へ報^ヲよ^クて^ハ渡^りゆ^へ報^ヲよ^クて^ハ内^ガ報^ヲ

たづねあぐも女清ニヨウガすみサヨシ及びれアヨ守荷オモ
をモチ持て心ココロ庭ニハをモ、メビ百チ度メビ廻ニワるあぐも
其ソノ間アヘタに清オシ姿スガタをミてコせメ終マるベきトあ
清オシ事コトありあむホろシ有ア難ガき清オシ談チヤラ
あマてハいハまシりニ何ニとシ事コトをサゆるア及
れオまシ荷カネをモチ持て心ココロ庭ニハをモ、メビ百チ度メビ千チ度メビ
廻ニワるとヤらシてハるエ度ヤクドもモ千チ度ドもモチ持

て廻ニワるハ其コ間ノに清オシ姿スガタをミられシせ
終マるベきトあマてハいハまシりニ何ニとシ事コトをサゆるア及
れオまシ荷カネをモチ持て心ココロ庭ニハをモ、メビ百チ度メビ千チ度メビ
廻ニワるとヤらシてハるエ度ヤクドもモ千チ度ドもモチ持
て廻ニワるハ其コ間ノに清オシ姿スガタをミられシせ
終マるベきトあマてハいハまシりニ何ニとシ事コトをサゆるア及
れオまシ荷カネをモチ持て心ココロ庭ニハをモ、メビ百チ度メビ千チ度メビ
廻ニワるとヤらシてハるエ度ヤクドもモ千チ度ドもモチ持
て廻ニワるハ其コ間ノに清オシ姿スガタをミられシせ
終マるベきトあマてハいハまシりニ何ニとシ事コトをサゆるア及
れオまシ荷カネをモチ持て心ココロ庭ニハをモ、メビ百チ度メビ千チ度メビ
廻ニワるとヤらシてハるエ度ヤクドもモ千チ度ドもモチ持

とらあさとも^{カセ}伝^{カセ}あ^{カセ}は^{カセ}ら^{カセ}う^{カセ}有^{カセ}座^{カセ}を
ま^{カセ}ま^{カセ}あ^{カセ}て^{カセ}も^{カセ}果^{カセ}は^{カセ}賤^{カセ}し^{カセ}き^{カセ}業^{カセ}い^{カセ}う^{カセ}ぞ
いと^{カセ}り^{カセ}ん^{カセ}あ^{カセ}を^{カセ}あ^{カセ}も^{カセ}重^{カセ}荷^{カセ}あ^{カセ}り^{カセ}も^{カセ}あ^{カセ}ふ
ま^{カセ}で^{カセ}あ^{カセ}く^{カセ}慈^{カセ}乃^{カセ}持^{カセ}ま^{カセ}よ^{カセ}あ^{カセ}う^{カセ}あ^{カセ}ま
作^{カセ}あ^{カセ}し^{カセ}初^{カセ}て^{カセ}恋^{カセ}の^{カセ}路^{カセ}ち^{カセ}ま^{カセ}う^{カセ}よ^{カセ}ん^{カセ}の^{カセ}途^{カセ}
あ^{カセ}ら^{カセ}ん^{カセ}あ^{カセ}も^{カセ}理^{カセ}り^{カセ}や^{カセ}恋^{カセ}の^{カセ}重^{カセ}荷^{カセ}実^{カセ}
持^{カセ}あ^{カセ}ぬ^{カセ}あ^{カセ}は^{カセ}牙^{カセ}う^{カセ}あ^{カセ}其^{カセ}及^{カセ}う^{カセ}ま^{カセ}い^{カセ}高^{カセ}

き^{カセ}し^{カセ}思^{カセ}ひ^{カセ}の^{カセ}深^{カセ}き^{カセ}い^{カセ}わ^{カセ}る^{カセ}あ^{カセ}ら^{カセ}う^{カセ}行^{カセ}き
次^{カセ}た^{カセ}や^{カセ}も^{カセ}と^{カセ}ん^{カセ}や^{カセ}実^{カセ}命^{カセ}さ^{カセ}か^{カセ}ら^{カセ}す^{カセ}牙
乃^{カセ}塵^{カセ}の^{カセ}浮^{カセ}世^{カセ}に^{カセ}命^{カセ}て^{カセ}あ^{カセ}く^{カセ}物^{カセ}を^{カセ}
思^{カセ}ふ^{カセ}う^{カセ}あ^{カセ}切^{カセ}思^{カセ}ふ^{カセ}や^{カセ}あ^{カセ}慰^{カセ}む^{カセ}と^{カセ}露^{カセ}の^{カセ}か^{カセ}と
を^{カセ}夕^{カセ}顔^{カセ}の^{カセ}た^{カセ}う^{カセ}か^{カセ}き^{カセ}時^{カセ}も^{カセ}あ^{カセ}ら^{カセ}ぬ^{カセ}恋^{カセ}
の^{カセ}重^{カセ}荷^{カセ}を^{カセ}持^{カセ}や^{カセ}ん^{カセ}ま^{カセ}う^{カセ}く^{カセ}も^{カセ}思^{カセ}ふ^{カセ}
い^{カセ}捨^{カセ}し^{カセ}唐^{カセ}玉^{カセ}の^{カセ}ど^{カセ}う^{カセ}と^{カセ}思^{カセ}ふ^{カセ}い^{カセ}石^{カセ}も^{カセ}さ^{カセ}ま

立矢の右よりいふもかろく持あよ
持や荷はきりたふある心そ君が
為を知る重さも心うへてとてやく
志も人あゆとそもく決断のころ
一途に恋のやつふ成をそくあ手母こ
あるもうくりとあきせよあすもゆ
なやあ空の命を頼めし極さかり

もちちちや柔ゆあき恋をすきさ選
がててんまとも秘くまはさうさ
や摺ぬの我年杓の肩かて持も持
たれぬうも恋は行の重荷なり
あをれふもとたよあくは行をさそ
恋の私のはくね緒も絶をそぬ
のや恋しあん執らぐそれか人ん心

心^{ココロ}意^イよありて思^シひ志^シせやさん
行^{ユキ}と花^{ハナ}の空^{カラ}く成^{ナリ}つるとやう言^{コト}語^ゴ
道^{ミチ}判^{ハナシ}あはまき事^{コト}よめてんがやう
ふとて意^イとやう高^{タカ}き疑^{イガヒ}き隔^{ヘガレ}ぬる
よて作^{サス}へむ彼^{カノ}者^{モノ}の意^イ乃^ノつらさをやめ
させんもの方^{カタ}便^{ベン}よて室^{ムロ}花^{ハナ}のをほく
てとを後^{ノチ}に錦^{キン}繡^{シュウ}を次^{ツギ}にたうかう
はしてつらさもかろきをよんせて持^モせおバ
彼^{カノ}者^{モノ}思^シひよか程^{ほど}かろきをよん荷^ネをれ
とも意^イのうあまきめきよし
ぬると心^{ココロ}の意^イの心^{ココロ}や留^{トド}まるす
清^{スガ}事^{コト}よてくらぬよき者^{モノ}のか
あいらの是^{コト}を持^モ清^{スガ}庭^{ニハ}をめぐらば
姿^{カタ}をまゝにらせ終^{ハシ}つんるすをよるらび

せうふくをうらむたぬとありま
荷あれも持たぬを恨んで
し身をうらむ事をもも
しうらむ由を中よりするま
中より山科の花白を
清庭より空くありてんが
しき者の一念はたうらむ
行く

あうらむまうらむありて
姿を一目の後ぞまはる
我事空よあすお戀こひ
ぬのうらむ物心の者
解よ天れも清後よそ
にやませ いたんをす
またはきてらうらむ

ト 報ひの世のあはれ 剛方登
河名きりほ 行水の音よ
恋死し 一念の鬼とあるも
のめ 実もりのあまびく 剛方きぬ
乃 三世の契りのみちて 名の上
よも 度とよみ 我のあやあひ

たまにほのまほ 持て物あり
恨や 尊の城あり 王のまきうぬ
びの山やま 祭りも和山のまほ
持て 宝のともも 思ふあり
侍間 けり 侍まの身や
地獄のまき けり けり 終へ
らり 終へ 思ふのまき けり 終へ

思ひ乃きり立わづれいふ成り山河
吹帆まゝ路の圖よ迷ふとも物ぞ
其恨ハ重り重り教り終り六解
て晴ぬ屋一也是遠がひあこ松の
葉舟の神とありて子代の港を
舟もや千代のりきさし舟らん

碇

是ハ九州芦屋のおよぐりよそは我
自新乃り有よあり在京はて作
つらうめ乃在京とぬひいかに當年
三年よありてい作よ故歸乃事心
件あく作程よるはひい夕霧方とや
女を下らなやと思ひ作らるよ夕霧

あまのりよ故郷心許あはく作程よ松と

芦屋の里へ立紙洗羊乃之芳よい母下

あへき由心ゆて中へはらばやぐさく

下へへあはくは洗羊の芳よい中下

あはくするよて作系切あ音般志木の山

晴るそそるくくとやぐ立松衣日も

うあ夜をもかかぬるかり柳あはく

して福もあはく芦屋の里よい松と

く是はあはくあはく里よい松と

やぐて葉肉をりらるるよて作

まは鳥雀のあはまの志よい立志思ひ

を想はん比目乃柳のよい浪を隔つる

愁有まはくあはくあはくあはくあはく

世をたよ思ふ草我はらまぬ立音を

泣^ナて袖^{スベ}よあま^マれ^レる^ル涙^{ナミ}乃^ナ雨^{アメ}の晴^{ハレ}回^マま
 き^キな^ルる^ル心^{ココロ}う^ウあ^ハ ^{ツシ}夕^{ツキ}霧^{キリ}が^ガま^マつ^ツち^チた^タる^ル由^ユ
 う^ウぬ^ヌく^ク水^{ミヅ}中^{ナカ}し^シく^ク ^{コト}あ^ハよ^ヨ夕^{ツキ}霧^{キリ}と^トや^ヤん^ン人^{ヒト}
 迄^マも^モあ^ハる^ルま^マ ^{コト}此^コ方^{カタ}へ^ヘ来^キり^リ作^シへ^ヘる^ルよ^ヨ
 夕^{ツキ}霧^{キリ}あ^ハつ^ツつ^ツあ^ハつ^ツ恨^{ウラミ}み^ミや^ヤん^ンこ^コう^ウ
 か^カな^ナら^ラ梁^{ハシ}終^{ハシ}ふ^フも^モ風^{カゼ}乃^ナ行^{ユク}へ^ヘの^ノ後^{ノチ}よ^ヨも^モ
 あ^ハら^ラ音^ネ信^{シン}あ^ハら^ラき^キる^ル ^{コト}し^シら^シ心^{ココロ}ほ^ホこ^コく^ク

み^ミも^モ兼^{カミ}度^{タク}は^ハら^ラひ^ヒつ^ツき^キも^モ流^{ナガ}る^ルも^モつ^ツか^カの^ノ
 涙^{ナミ}も^モあ^ハつ^ツて^テ心^{ココロ}の^ノち^チの^ノあ^ハら^ラの^ノ年^{トシ}ま^マで^デ都^ト
 子^コう^ウは^ハら^ラひ^ヒつ^ツき^キ ^{コト}竹^{タケ}部^ベ住^{ズミ}居^グを^ヲ心^{ココロ}乃^ナ
 外^{ソト}も^モ思^{オモ}ひ^ヒや^ヤれ^レら^ラう^ウ都^ト乃^ナ花^{ハナ}風^{カゼ}耐^タえ^エ
 こ^コの^ノあ^ハら^ラひ^ヒつ^ツき^キ ^{コト}あ^ハら^ラひ^ヒつ^ツき^キ ^{コト}あ^ハら^ラひ^ヒつ^ツき^キ ^{コト}
 ひ^ヒの^ノ住^{ズミ}居^グ乃^ナ秋^{アキ}の^ノ暮^{ヨモ}人^{ヒト}目^メも^モ茶^{チャ}
 も^モあ^ハら^ラひ^ヒつ^ツき^キ ^{コト}契^{ケツ}り^リや^ヤ絶^{ツク}ぬ^ヌへ^ヘき^キ行^{ユク}を^ヲ頼^{タノ}

まん身乃行へ三年の秋乃夢あ
かくおとろふ事のみえもせて思ひ
牙の残ち昔の心もあつたや
偽りのあきせはかたくり人乃
言乃せらう事くえん愚の心おも思ひ
とせり頼くれ あく思ひやあ
いよ高て物音のあしはあきは行乃

音よそいぞ あきくう里人乃礎
つ音よそいぞ いろや我牙のうきま
よあ事の思ひおしめていざや磨上
嶺武の云一人胡國のやまよらハ
まき一よ故編の留め直一書や子夜
寔乃寢を思ひつと高樓よまきく
礎をうつ其心はらや通きん嶺武在

一カ里乃卯まで故郷乃礎^{キヌタ}ありと
あり^ト心^{ココロ}も思^{おも}ひ^ひいた^たと^とま^まは^はは^はい
し^しき^きく^くし^しえ^えと^とり^り綾^{アヤ}乃^ノ衣^イを^を礎^{ソコ}よ^よち
て^て心^{ココロ}を^を慰^{なぐさ}め^めた^たや^やこ^こ思^{おも}ひ^ひゆ^ゆ いや^{いや}礎^{ソコ}う^うら
賤^{シラ}乃^ノ女^メの^のこ^こは^はま^まて^てこ^こう^うし^しら^らり^りあ^あら^らう
御^ミころ^ろる^る慰^{なぐさ}め^めを^を為^なま^まて^て作^{つく}ら^ら礎^{ソコ}を^を
極^{コト}へ^へて^て美^みく^くせ^せ作^{つく}べ^べい^いは^はく^くき^きぬ^ぬい

う^うたん^{たん}と^とて^て月^{ツキ}漏^も圍^い乃^ノ床^{トコ}の^の上^{の上}に^に涙^{なみだ}の^の下^{した}に^に
く^く小^こ遠^{とほ}よ^よ思^{おも}ひ^ひを^をの^のり^り後^{あと}が^がと^と夕^{ゆふ}霧^{きり}
た^たら^らゆ^ゆり^りも^もあ^あら^らう^う恨^{うらみ}乃^ノ礎^{ソコ}引^ひつ^つと
も^もや^や衣^イ乃^ノ落^おる^る松^{マツ}乃^ノ聲^{こゑ}は^はく^く夜^よ寒^{さむ}を^を
う^うせ^せや^や知^しら^らぬ^ぬん^ん音^ね信^{しん}乃^ノ緒^{いと}あ^ある^る甲^か
の^の杖^{つゑ}乃^ノう^うき^きを^をま^まら^らん^んあ^あゆ^ゆべ^べ引^ひ
な^なを^を運^{はこ}ん^んも^もあ^あら^らう^うい^いは^はく^くも^も月^{ツキ}乃^ノ

隔めや 面白くおこるや 秋の夕
に 雲霞の色も心をこらへ 見ぬ山
を 送ら来て 木末の行ま 一葉ちるを
冷き 月影乃 行の志のよ 移るじて
露の玉たき 思ふをの くれ
おとろく くれ 宮楼高く 立て 風物よ
廻り 林殿 緩急よ して 月西よ 流る

藤武が 松林の 水乃 側是 東の 窓の くれ
雨より 来る 秋乃 風乃 送る 事 同
を乃 衣う たる 故郷乃 行端の
松も 心せ 木の 枝く 心乃 音と お
すゝま 今乃 礎に 色 添へ 君が ち
よ 心を やめ あり ち 松乃 我 心
通て 人よ 見ゆ ち 其 苗を 被る くれ

破^ハき^キて^テほ^ホの^ノ衣^イ誰^{ナニ}か^カき^キても^モさ^サあ^アら^ラず^ズ
来^キて^テと^トあ^アら^ラず^ズは^ハら^ラず^ズも^モあ^アら^ラず^ズか^カ
下^シも^モ夏^{ナツ}衣^イ着^キき^キ契^チり^リの^ノ後^{ノチ}り^リや^ヤ君^{キミ}
命^{イノチ}の^ノ長^{ナガ}き^キ夜^ヨの^ノ月^{ツキ}は^ハ運^{ウン}福^{フク}の^ノ奴^ヌ女^メ
い^イは^ハく^クこ^コろ^ロも^モう^ウう^ウう^ウの^ノ被^{フキ}織^{オリ}女^メの^ノ契^チり^リ
よ^ヨの^ノあ^アら^ラず^ズの^ノか^カり^リ衣^イ天^{アメ}の^ノ河^カ浪^{ナミ}た^タち^チ
開^ヒ逢^フ瀬^セの^ノあ^アら^ラず^ズ浮^ウ舟^{フネ}の^ノ梶^{カキ}の^ノあ^アら^ラず^ズ

き^キ露^{ツキ}の^ノ衣^イ二^ニ河^カの^ノ袖^{スエビ}や^ヤ志^シほ^ホる^ルら^ラん^ン氷^ヒく^ク
ま^マ草^{クサ}の^ノあ^アら^ラず^ズ浪^{ナミ}の^ノあ^アら^ラず^ズう^ウう^ウう^ウの^ノあ^アら^ラず^ズ
七^{ナナ}日^ヒの^ノあ^アら^ラず^ズの^ノあ^アら^ラず^ズの^ノあ^アら^ラず^ズの^ノあ^アら^ラず^ズ
あ^アら^ラず^ズの^ノあ^アら^ラず^ズの^ノあ^アら^ラず^ズの^ノあ^アら^ラず^ズの^ノあ^アら^ラず^ズ
知^チる^ルも^モあ^アら^ラず^ズの^ノあ^アら^ラず^ズの^ノあ^アら^ラず^ズの^ノあ^アら^ラず^ズ
あ^アら^ラず^ズの^ノあ^アら^ラず^ズの^ノあ^アら^ラず^ズの^ノあ^アら^ラず^ズの^ノあ^アら^ラず^ズ
あ^アら^ラず^ズの^ノあ^アら^ラず^ズの^ノあ^アら^ラず^ズの^ノあ^アら^ラず^ズの^ノあ^アら^ラず^ズ
あ^アら^ラず^ズの^ノあ^アら^ラず^ズの^ノあ^アら^ラず^ズの^ノあ^アら^ラず^ズの^ノあ^アら^ラず^ズ

ほろくたしくとちと行きてぬい
 乃音やえんめりや作都より人
 乃まひりて作が此年の音よもお下
 あるまふきよそい 恨めやせめて
 一年の暮れさう偽らぐまらなるよ
 ばそつちや紙子替り果終あそや
 思ひこ思ひこるもよるるこれ 甲 整

も枯歸り虫の音の紙るちり心
 何れとなさちしてやまの床より
 志原み終よさうくありよきあく
 夢想やちう子過ぬるをもを恨むまわ
 何れも其まよそ終りあれとちあ
 きたるがや けまたぬ梅乃やちるひ
 百後草 乃陰のちも二度婦来

後^ト道^トと^トあ^トか^トく^トの^ト様^トの^ト身^ト乃^トう^トを^トつ
よ^ト言^ト葉^トを^トか^トつ^トた^トあ^トを^トれ^トは^トな^トく
之^ト瀬^ト河^ト泥^ト梁^トよ^トし^トう^トた^トく^トの^ト氣^トた^トの
あ^ト手^ト牙^ト乃^ト行^トか^トる^トひ^トや^トう^トを^トい^ト花^ト乃^ト
光^トを^トあ^トく^トべ^トて^トい^トは^トは^トの^トま^トを^ト能^トく
地^ト餅^ト乃^ト知^トの^ト燈^トハ^トい^トは^ト乃^ト秋^トの^ト月^トを^トこ
は^トる^トら^トり^トあ^トぐ^トら^ト我^トは^トく^トこ^ト乃^ト罪^ト深^ト

ま^ト思^トひ^トの^ト煙^トの^ト立^ト居^トた^トよ^トあ^トく^トら^トり^ト
斬^ト乃^ト血^トを^トし^トれ^トる^ト心^ト乃^トい^トと^トを^トめ^トて^ト獄^ト染^ト
所^ト乃^ト血^トを^トし^トれ^トる^ト標^ト乃^ト枚^トの^ト深^トも^トあ^トく^ト折^トや
く^トと^ト解^トの^ト礎^ト根^トり^トり^トを^トる^ト固^ト果^トの^ト
妄^ト執^ト固^ト果^トの^ト妄^ト執^トの^ト思^ト乃^ト淚^ト礎^トよ^トか^トく
ま^トい^トの^ト涙^ト乃^ト火^ト始^トと^トあ^トつ^トて^ト胸^トの^ト
煙^トの^ト始^ト乃^ト咽^トへ^トは^トら^トを^トへ^トと^ト喜^トし^トが^トら^トそ^トハ^ト社^ト

も 鶴も 鶯も 松風も 鶯も 鶯も 鶯も 鶯も
の 忍ぶ 羊乃 あり 道 岡 果 花
は 移り 竹 あり 乃 道 岡 果 花
小 車 乃 火 宅 乃 門 を 出 され 廻 子 廻
ま とも 生 死 乃 海 離 る ま や あり 子
あ の 浮 世 や 恨 ん ぐ す 乃 城 の 恨
ち ぐ す の 柴 乃 路 乃 盆 乃 瓶 心 の 面

影 乃 だ づ り や 思 ひ つ ま 乃 二 世 と 契 り
乃 末 の 松 山 乃 子 代 と た の め
事 乃 あり 乃 あり 乃 あり 乃 あり 乃 あり
う も あり 乃 あり 乃 あり 乃 あり 乃 あり
を う 鳥 も 心 乃 あり 乃 あり 乃 あり 乃 あり
茶 乃 あり 乃 あり 乃 あり 乃 あり 乃 あり
空 乃 あり 乃 あり 乃 あり 乃 あり 乃 あり

お其の南國に至るも故郷を志と
お其の南國に至るも故郷を志と
よ君のあれは様まゝおきり衣
現とも夢ともせめてあと思ひ知すや
うらや法華續編乃ちうらや
てく悲具正に成仏の道明らう
ありよきわきも思ふかりうめよう
ちい礎乃ち文のうら開系法の花心美
櫻乃種とありまろく

本賦

第 一

信濃路を寺嶽が功もく日も遠く

乃るる氣 是は都の者よそ作ま

是よりきたりしは本國の信濃國の人

以て作て又君子今一度對面ありたま

ふに信濃國の我未伴に中 信濃國

志作 道あるや嶽乃開乃戸あを

くしてゆく家へつくと定めなく行へ
も志らぬやあがもと色あふ人を在
明の月日はあかく木曾路つてうの原
山よ急なまきりく 木賊のやま
のあまでもうのりやあきや乃道も
秋ゆく系 相のたま一葉をふあ
や音を踏すえん 面白や所ハひる乃

伝居あれもえん所乃故やま山登
乃ながめもききたつ木曾乃らうの
相よりゆる雲間乃物づくひうのり
山よりつらびてとらかる燈乃深緑
草色秋も露志きく 木曾乃あ
乃行へて妻やもあうの原乃
可ハ信濃路やづく 木曾乃あ橋乃

くさし真如の皮がうら思へ本賊
乃か我も又本賊の所をた思我
心みかきや見げ所乃鳥も本賊
望てとらじやなく
射殿子事やへさるるの
よてしり行事よてしり
ありきあるが平はく本賊を
いふ是あり

持終よ事づの所もも熟ぎぬわらと
見してあ害よさう作人其牙よも
熟ぎぬはと熟ぬ人かはくさう
しはりあづうの原山乃本賊の
といひ名草といひ平人も本賊
平はく新持家づとこころは
定くちよて作はて此可よあせや

森と申もこのいり いらぬあまのみ
えたるさういせや乃森よく作入
乃のいせや乃森よたつまごと申木
乃いり 田舎人の楯乃一本うまくと
みこころさう筈木よ作入筈よ
他たる木よいよありたつまごと申
あつていけて是ハやとり木よい

古事乃思ひいでるの原や
いせやよわさうさう木よありとらみ
えて逢ぬ君くれこよあり行とてあり
とらみとてあをぬ君いよあま斗とく
作入 賊身よていハ深き心をバ
いそで辨いへきいりあぐら前よ習ハ
したる織をもつて糸乃心と推量

アハよ何のちうきふを洗邊より見せ
みしはが本陰よりりては見しはハぬ
とよぞの心をあつとみそて逢ぬ
君うれとよまれたる事よてもわいた
そはて今もあつては見し作ぬ
中より事のみ今其機軸を見せ申は
おと 小お子近はき立よりて あり

洗後きよたるまてり けよてくれ
かきたして 行きたるれ かし
やあ ようまてはまはくみ
ハまこのハハ陰よきそ見せハあ
よきちかたもあしありとみそて
あをぬ君と清くぬることろ
まの面白やうや道志るあかめ

あつちきる家人のとも塔乃を申志成る也
やその常本のだ移向うせし
めりよ僧たち申我あぐやどりの見
さよて作一夜をあして街通りい
あうろ行やれらばまいらさるよめてい
いよ僧たち心易く法座作(今
乃尉殿ハ少所よ思ひ乃いびき時ハ

うつあまきよきいの其時ハ心ゆるて法あ
アういへ心ゆる中めりよ僧た
ち今夜ハ心静し尉が尻乃よを語つて
あき中いへて尉ハ子を一人持ていよ
行へも知ぬ人よらうりれくきりよ
あひていも一も行へやあと思ひ法路
法よ后所を建は来り人を留中い

我子ハ帝ノ小斎曲舞をとりて友を
集め舞々しむ程ノ此尉も時々ハま
ひ謡ハ誰ウある御座をまゝと作入
り申ノ中作又今ノ尉殿ハ我オク親
まて作 行た今ノ尉殿ハ又君ノ
て此座ハとやらるるをわがそ御名ノり
あらうするよそハ 子方 ちや智思ハ子細ノ

ハハ先志ノ由そ御入ハ心ノ
あつし御僧たちノ中作あまうよ我
ちうよ御程ノ酒ともちてまいつてハ
清心ハ右籙を事とも飲酒ハ佛
乃ハ御めよそハ 飲酒ハ佛の心ハ
御めハらるるも御奉化懸
の御代御座を御勒佛乃御迹あり

とちたゞ酒をさるも嬰児を愛し
給ひしとやまゝてや我を乃觀ひ
舞曲の酒ありたりよきよて若
生をたぐはす心けをハおとり懐こ
於ちちん 孫の玄途乃孫をく
て心乃底までも清むる法乃真
水と思ふて飲酒乃心ときてひとつ

きうらるれよ 夫あやまらて仙家よ入
て半日の密つちとつこも四里と路つ
そ七世乃孫よあま事をあろり
いんや一世の親子こしてると其情の
かささんていたいの新をそり考
お母を玄月乃廣舞乃かしてなる父
をうやまふたりつり 銀者乃思

あはれも孝行の心ある人やお悔
の涙連たりたるは教を釋する
も死骸鳥長子とて終へて人
や二佛の仲間の生をて恩愛の
義を知らんハ本石よとあらぬ石の
火の光るるまをたもむとやうひ
もせぬ親ハ子屋を行ともあを思はぬ

子誠ある子ハあつて十年をくれ親
を思はぬ習ひとハ成身乃とよ志
是ころりニ父や人の親ハ心ハ周ハ
あはれもこを思ふ道ノ速おとハ誠
ありや我もぐる其面影乃わきぬ
昔子也ハ母の袖我子ハかきう舞
おと流平をがうころり志と

てはた子 親の種もやひはる
解物もまゝあんと人か後すす母解
あまも子を思ふ涙とや人の見さる
子をねるよ 子を思ふ所の老鶴の
啼ものを 空や子をねる 園の夜
鶴の老い盆中 ぬるもはるる
五老の月の影に酔す 枕のうへ子

いまはたは 我子よ 親およ 親の老い
やけまものを あらうや きたる
うらやたは 葬もうもうつから
も子故あれ 老の涙のあをれ 立ゆり
後一月父よりより 泣くは 行り
つまんこれうらや 泣き 松若と云
みもきき 涙れ たうや 我子こた

月ツキ我ワおほつおほつののややんん進しんははててわわれれ
一 我ワ子コああるるんん 親おや家いへ安やすらら親おやへへままをを
進しんああるる奴やつ有あ極ごくをを 見みままははははすす
かかききふふ 親おやあありりままりり 子こあありりままりりやや
恨うらみめめややああととははららくくままももあありりはは
いいぬぬるるここのの時ときははもも恨うらみままああるるここハハああまま
ううままももそそもも急いそぐぐううままししののわわれれ

わわくくしし親おや子こハハ僅わずかくくのの故ゆゑをを
ああたためめてて佛ぶつ法ぽう流りゅうをを乃すなはちち寺てらととああ
佛ぶつ種しゆのの縁ゆかりととああるるままりり跡あとははままりりのの
おお語ご浮う世よ語ごははあありりままりりのの

姨捨

月乃名ちかしあきあれやしくをバ
まて山をたつねん か換よの者ち

えちのり者まて作我いまづら

しち乃月を足ぬいあひのい秋思ひ

まをまてまて山子越作 汝ほどの志

の櫛居乃かりれく又まて居る中

宿^ヤの^フ的^カ一^コ言^トして^ハ行^ク程^ニよ^リ家^ノ安^クを^シめ^ス
行^ク実^ニ料^トや^トを^シて^ハ山^ノよ^リ急^ニなり^キ
さ^トを^シて^ハ山^ノよ^リ急^ニなり^キ
こ^トろ^ニよ^リ来^テて^ハれ^ドを^シて^ハ最^ニ考^テて^ハ眺^ミ望^ム
を^シて^ハ子^ノ里^ノよ^リ後^ニあ^リき^テ月^ノ此^ノ後^ニは^レこ
ろ^ニお^もひ^やめ^テる^ハる^ハ換^シ込^メ前^ノよ
や^トも^シて^ハ今^ノ宵^ノ月^ノを^シ眺^ミ望^ム也^ト思^ハふ

あ^まく^もあ^まく^もあ^まく^もあ^まく^もあ^まく^もあ^まく^も
い^ふ不^レい^ふん^レ作^レ是^レハ^レ都^ノの^レ者^ノよ^リて^ハい^ふが^レ始^メ
て^ハ此^ノ前^ノよ^リ来^テて^ハい^ふよ^リあ^まく^もあ^まく^もあ^まく^もあ^まく^もあ^まく^も
の^レ才^ノ多^クる^ハと^シて^ハ望^ミ月^ノの^レ名^ノの^レ殊^ノよ^リゆ^キ
を^シて^ハ夫^ノつ^レ原^ノ依^ルる^ハい^ふ方^ノの^レ字^ノを^シて^ハ其^ノ才^ノ多^クる^ハ
い^ふよ^リ今^ノ宵^ノ月^ノの^レ面^ノ白^クなり^キ母^ノを^シて^ハい^ふ
出^テて^ハく^レ古^ノ姨^ノ捨^ル乃^レ在^ル前^ノい^ふづ^クの^レ程^ノ

よてゆ^{シテ} 我心慰^{シテ}ぬつ文科^{シテ}や姨^{シテ}

捨山^{シテ}照月^{シテ}をそとあがり^{シテ}人の跡^{シテ}

あゝ^{シテ}巴^{シテ}果^{シテ}よ木^{シテ}を桂^{シテ}の本^{シテ}の陰^{シテ}に^{シテ}在^{シテ}

つる姨^{シテ}捨^{シテ}の昔^{シテ}の跡^{シテ}よて^{シテ}い^{シテ}よ^{シテ}ら^{シテ}て

ハ^{シテ}此^{シテ}木^{シテ}の陰^{シテ}よ^{シテ}あ^{シテ}る^{シテ}捨^{シテ}直^{シテ}ま^{シテ}し^{シテ}る^{シテ}人の跡^{シテ}の

其^{シテ}ま^{シテ}あ^{シテ}ち^{シテ}申^{シテ}よ^{シテ}理^{シテ}を^{シテ}あ^{シテ}る^{シテ}世^{シテ}と^{シテ}今^{シテ}

はん^{シテ}や^{シテ}昔^{シテ}語^{シテ}よ^{シテ}あ^{シテ}り^{シテ}ぬ^{シテ}ま^{シテ}こと^{シテ}概^{シテ}心^{シテ}や^{シテ}あ^{シテ}ら^{シテ}ぬ

ま^{シテ}ん^{シテ}元^{シテ}跡^{シテ}迄^{シテ}も^{シテ}何^{シテ}と^{シテ}や^{シテ}ら^{シテ}ん^{シテ}お^{シテ}清^{シテ}く

此^{シテ}京^{シテ}の^{シテ}風^{シテ}も^{シテ}水^{シテ}も^{シテ}深^{シテ}秋^{シテ}の^{シテ}心^{シテ}今^{シテ}を

て^{シテ}も^{シテ}慰^{シテ}む^{シテ}ぬ^{シテ}つ^{シテ}文^{シテ}科^{シテ}や^{シテ}あ^{シテ}ら^{シテ}ぬ^{シテ}姨^{シテ}捨^{シテ}山^{シテ}乃

夕^{シテ}暮^{シテ}よ^{シテ}松^{シテ}も^{シテ}桂^{シテ}も^{シテ}交^{シテ}り^{シテ}あ^{シテ}ら^{シテ}ぬ^{シテ}縁^{シテ}も^{シテ}あ^{シテ}ら^{シテ}ぬ^{シテ}

秋^{シテ}の^{シテ}葉^{シテ}の^{シテ}ま^{シテ}や^{シテ}色^{シテ}付^{シテ}り^{シテ}一^{シテ}ま^{シテ}山^{シテ}乃^{シテ}霧^{シテ}も

立^{シテ}渡^{シテ}は^{シテ}冷^{シテ}く^{シテ}雲^{シテ}盡^{シテ}て^{シテ}ら^{シテ}ひ^{シテ}る^{シテ}山^{シテ}の

空^{シテ}色^{シテ}は^{シテ}く^{シテ}いた^{シテ}橋^{シテ}人^{シテ}ら^{シテ}て^{シテ}ハ^{シテ}月^{シテ}

見人為子来り終ふもらあはるる

も月とたに歌ひて橋人の夜遊を

慰中へ下 下しや夜遊を慰せるとハ

流牙のいりある人やらん 我古ハ更科の

者 出てとふ又何方よ すまのいハ

其このふ乃 名やおびる といすて

乃 下れといはせもさうや 其ハ

みへもきて 出て 唯をさり 此ふよま

月乃あも秋もの 概心の園をさるら

とと膏歌いれり たりとゆふや乃木の

本よかきけは 下りよ 失ふさあはく

夕かきるる 月歌の かくさやそりめ

て面白や 萬里乃 室もくぬあてつ

く乃秋も 満るま 心もすそて おもすが

こころもをさきて 山はなむがほ
前乃 昔よぬる 木のよみ 月のさむ
人まゝあて 花よを
袖の露乃 いろ柳乃 秋遊の人よ
に 洲をめて うつあや 比るあをた
ふ 女節花 草衣志ほめてむり
し たらはそそ 程の糸と志すて

みよとばきて乃 ちまよの面を更料の
月よにゆるも ちりやわや 何ふるも
夢乃 世の甲く いろ思や 思るま
花よ めて 月よ ちり ちり ちり
空や 鳥よ いろ ちり ちり ちり
踏 ちり ちり ちり ちり ちり
に 霞乃 ちり ちり ちり ちり
紙子 月

乃名前行くハあまきとら〜
宝く山乃くありあまきつ梅とる清
光のりも同くそて海崎をる
志く山を諸山ハ物言ひ行き晴方ハ
此れハ超世の悲心歎誓寺法海地
光明よ志くわあ〜
西行ふハ氣生をて西方よすく

めつらんがためとわ月ハ波如衆の右
乃脇侍とて有縁をくふ道守まに
身ハ罪とらるせとる天上乃ちの
をうれゆ急よ大聚至とる号すとの
天冠の回よたふらひらわき玉の
聖の板くよ他方乃海とあつん
玉珠樓乃くせの音侶伴の志とる

石橋

早内^{ワチノ} 是^{コシ}ハ大^{オホ}江^エの定^{サマ}基^{モト}の家^ケ一^{ヒト}寂^{シブク}昭^{シラ}こ
 P^{ホウ}法^{ホウ}脚^{キョウ}よ^シて^シ我^{ワレ}此^{ココ}度^{タク}入^ニ守^{ミツ}せ^ルり^コ
 斗^シより^リ清^{シマツ}涼^{リマツ}山^{セム}よ^シま^ツつ^クた^ヤと^ホ
 女^メひ^ヒ作^シる^{コト}を^シよ^シみ^タる^ガ原^{ハラ}な^タれ^ル
 石^{シタマ}橋^{キヤウ}よ^シて^シ何^{ナニ}も^モな^シく^シ物^{モノ}々^々進^シ前^{マエ}よ^シ
 山^{ヤマ}び^ヒく^ク教^{ケウ}法^{ホウ}を^シよ^シて^シ石^{シタマ}橋^{キヤウ}を^シわ^ル

たつと書と故作 剛 松凡の翁を
 新子吹く 又ラ べて電を えん したる ラ ぶ山
 路 デ 氣 イ いう イ 先 イ ある ヤ 山人 ト 子 ト 書 ト ぬ
 き イ する イ の イ ん イ 行 イ 事 イ を イ 出 イ た イ ら イ づ イ の イ い イ ぞ
 是 イ ある イ の イ 承 イ 友 イ た イ る イ の イ 橋 イ よ イ て イ い イ り
 山人 イ 作 イ 是 イ 一 イ り イ の イ 橋 イ よ イ て イ い イ づ イ び
 ハ イ 文 イ 殊 イ の イ 降 イ 去 イ 清 イ 涼 イ 山 イ よ イ り イ づ イ づ イ ぬ
 又 イ 一 イ 回 イ して イ 石 イ 橋 イ よ イ て イ い イ づ イ び イ する イ ぞ
 や イ ら イ あ イ る イ の イ 身 イ 命 イ を イ 佛 イ 力 イ よ イ ま イ の イ を
 て イ 武 イ 橋 イ を イ や イ づ イ ち イ を イ や イ と イ 木 イ 女 イ び イ 作
 智 イ づ イ の イ か イ こ イ ん イ を イ 以 イ 終 イ び イ 高 イ 僧
 達 イ も イ 難 イ 行 イ 若 イ 行 イ 橋 イ 牙 イ の イ 行 イ よ イ て イ 交
 小 イ 月 イ 日 イ を イ 送 イ ち イ ち イ 橋 イ を イ び イ ける
 始 イ び イ つ イ れ イ 柳 イ 子 イ ハ イ 小 イ 忠 イ を イ ら イ づ イ ん イ と イ ぞ

も先ツいきほびとあはとらうキ我ホ法ホ
かニのあまニまニぶニとニてニゆニくニとニあニるニすニ石ニ乃ニ
橋ニをニだニやニまニくニねニむニわニらニんニとニやニ
何ニくニたニるニそニをニのニ階ニすニやニいニまニれニをニ
あニはニ有ニ難ニやニたニくニよニのニつニ子ニのニ跡ニ人ニのニ
たニたニあニらニわニらニぬニ橋ニよニあニまニしニ湯ニ環ニ
作ニへニ此ニ離ニ波ニ乃ニ雲ニ乃ニちニらニてニ谷ニありニ

とニ離ニつニがニさニのニ敷ニ子ニまニしニ乃ニもニ磯ニもニ
あニいニをニほニのニうニへニまニわニらニくニまニかニるニ石ニ
乃ニ橋ニ乃ニ若ニあニりニらニうニまニ是ニもニたニまニあニらニんニ
かニいニまニはニ目ニもニくニれニ心ニもニちニやニらニうニのニ
のニ争ニあニるニ石ニのニ橋ニ乃ニまニあニつニゆニ賢ニぎニよニ
橋ニもニとニよニ歩ニかニこのニがニめニはニ此ニ橋ニ乃ニたニもニ
てニいニ人ニもニもニたニらニんニたニらニてニあニらニるニ泥ニ和ニあニ

も志く雲の窟窟をわづらふも
なりあやしや目もく心も清
まきえとありよりきりたほろ世の行人
ハたむひもよらぬ清き
橋のいそし御物より
地界開く時より河海國也より
まりしと黄高をを作ら行

よきとありけり
禹の命し橋梁を始し木梁石
梁さぬくよりて楫樽の勢をの
くし萬氏あく世をわづらも別橋の
徳と名や志くよ此石橋とヤハ人
間の渡き橋よあはれ木の本と山
現きて谷を渡わする石あはれ石橋

とくうぶつをたまき其にそわたり
よるのりもせまきしめて若くは
たもめりりなる其長さ二丈子
答のりこましく深きこと子丈より
よるにちるる離乃と雲より
星てちるるはくさりもちるる音
ハ飛よひさき合てよ山河震動

めつちられをうごせり橋り
を見渡き雲よりゆるる
を夕湯の初めのねと虹をあせる
い又ひらぬゆるりちるる
かよのうんで答をえぬわあま
つきもしこを渡り人色あり
愛佛がよあはれり此橋をわ

たるべきむくしハ文殊ノ海云より
 帝ノ異名ノ花よりそ生笛琴
 管ノ候夕日ノ雲よあそそ目新ノ
 奇物ありあり物まろき人ヤ
 影向ノ時節も今つくほとりよも
 何れド 柳子園乱旋ノ舞樂のみよ
 母 體林ふ離均の柳子頭うてやん

やまや牡丹芳牡丹芳牡丹芳
 さ白ひ清く黄金の柳子頭て花ふ
 た子ま枝よあまろびごまたとひ
 ちまき柳子玉乃いさほひあびぬ梨
 本もあま時あれや萬歳子秋也
 舞をしらぬ萬歳子秋と舞をしらぬ
 て柳子乃座よりくるるをりまれ

關寺小町

剛 才

待ひての夜を秋の月よ
く早くま

はらわをあらわす
是ハ江州關

寺乃僧より作さるる七月七日

よして作ほるる織女乃糸をとりを

ふみひ作又山陰より若女志を

ふみびてはるる道ときいめたる

あひや 祇考 女乃 物語 をも 歌 せ
を や と ぬ 作 さら くら くら くら くら くら
と 裏 髪 貞 と 一 時 子 来 る ま つ あ の
七 日 の ゆ づ へ 一 早 あり ぬ せ 織
女 の 平 向 きて 呂 律 舎 の 志 も せ じ
と を け け け け け け け け け け け け け
を ぬ ぐ の 急 ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ
を 薄 華 を し 入 て 秋 草 の 露
の 玉 こと かし あり 松 風 まで も
お かつ 平 向 一 軒 を の け け け け け
く 柔 女 一 軒 を の け け け け け
水 流 した 草 衣 夕 の 入
か け け け け け け け け け け け け け

あひや 祇考 女乃 物語 をも 歌 せ
を や と ぬ 作 さら くら くら くら くら くら
と 裏 髪 貞 と 一 時 子 来 る ま つ あ の
七 日 の ゆ づ へ 一 早 あり ぬ せ 織
女 の 平 向 きて 呂 律 舎 の 志 も せ じ
と を け け け け け け け け け け け け け
を ぬ ぐ の 急 ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ
を 薄 華 を し 入 て 秋 草 の 露
の 玉 こと かし あり 松 風 まで も
お かつ 平 向 一 軒 を の け け け け け
く 柔 女 一 軒 を の け け け け け
水 流 した 草 衣 夕 の 入
か け け け け け け け け け け け け け

あーり花ハ雨ハさるよよあてらんか
あまらよ木ハさ柳ハ花ハあま
かきてみらんややくたきあ人更
よゆき事ハ一終ハ老ハ雪ハの
も精ハ心ハ舞ハくれもせらんか
あふ秋ハあーあらんか恋ハや
くーあふハ老ハ女ハさきんあふ

是ハ開寺よま心者よそん決け人
哥よまあなれハ福ハ老ハ女ハ事ハ
あまよびらんのみらんもさきまらん
あつお語ハもうきたまらんせん為よ
らんまてらんあびやてん是ハ思ハ
しらんあ事ハあらんあ埋木ハ人
一まあ身ハ花ハすらんほらん

へまよー急あゝん心なたのひと
て言葉の花色音ようまだちどり
其まごゝをららんやらんもを
らあすんの内ころあよすき終ふ物
うかまづくあまめく人分かれ
作ハ舞の津の舞はよ流あを平
ちろぶらめもまゝく作り

たれ舞ハ神代あちまもれども
ぐさあひの世のまよあひよのどの
心あまかくあれをねほらぐまらん
まかの湯屋よつと終ひを賀ん
あやー此舞のあしやすくしめて
たくらあれを先あつまよが作
らめまゝ清音山のあはねほま

この色をわづらぎ 政よ是又めで
たきあまていり せよゆく 心の
ひこり 洗つて 哥を又母のやうに
す 平習ふ人の初とあて 高
まがーきんをもちる 都も
都もるさて かく 我らとまの
ものまでも ときくる心よ あま

つくる ちか 母よこの城あはも
こころえの くらげやまの 美砂ハ
盡す 青柳の 魚絶ち 松乃 成れら
うきぬ だぬ心と ねほし せな
時うつこと けるとも 此哥乃 文字
あつたを 鳥乃 跡も つけき せやく
る 鞠うい 又 承り 度事 乃 けを

こかくもよびありらるる蛇の
たふらびこよひ志す一色紙作者ハ
紙よしのす 是ハ衣通紙乃法
哥あり衣通紙と云允恭天皇
乃きらるる法いとよま
まん我おもうの民と志す紙作
らて衣通ひめ乃流をまのび終

あやいよ一乃小野小町さうらと
ほり紙乃流とらうをたまづれよび
ぬれハ身をうき草乃根をたく
てはうふああをいあ母とさうに
よ紙哥ハ小町が讀ていあ
是ハ大江の雄子うらあをりせ
一ほらうあ物うりり子文屋

乃康秀があがしよろこびし心
をもあぐらめようともかきとけ
うびし後よふらうしあり
きそとを経し物をききハ源
あるもの又思ひさかかーはよ
かきあわびぬれをらあはが
あんだらと家々又交通なり

流とあつるも小町あり
とふのあふよ考ぬいもよあ
久ハ小町の小町の山巖を經る
をいますあふべきれはそハ
所もあくたところ小町をてか
あらのこあつる経ひやあよ
い小町とあまうやいあ思そと

命 既よかきりとあつてたぐ橙花
日乃葉よねふとあふくなき
の救うよ甲よあをれつまの白
まろく歌う心と詠き事も我の
くろつたまで草の花あちり感不
らしてしおきるた露乃命あちきるが
意一の音や志のりいよの牙や

と思ひあつていよもさる事あり
行なふをめていぬあたまめら若う
うひす。紅突いみ魚ハヒとおし
ぬき。宿までもかろくをかしらるが
つん角はかち外よハ花瓶とつ
福つ。蘭奢紅沉くゆして色香
よりこそ教妙のれつくつまやのう

ちみして花のみきり志とぬり
まよ一列一牙あれともい
りもを志し床あき
の鐘乃々徳諸行を常こ
若耳よ六益もあし逢坂乃山
是生滅法のとわりをも
花は落葉なりをらしくい
道

そ草の戸子硯をのつ
うめてもほ草のやとの
かれぐよ物あれあや
よかづつよりぬの
はつと志く若の牙のよ
なりあき
あつと作織女の糸
遅りうの若女をも伴ひ
人

ワキ初
あま子^{ラヲ}若女^{シヨ}たあづる^{オレ}乃まつちを^イと
か^{アツ}そ^ゴて^{ラシ}は^{シテ}強^クん^ニへ^テい^ハやく^ク若^ク女^ク事^ト

かま^カかり^マま^カその^ホ程^ノ思^ハひ^イも^ムら^シる^ハ

竹^{タケ}乃^ノら^シる^ハう^ラき^キく^クの^ハま^マ

織^{オリ}女^メ乃^ノ織^{オリ}急^クま^マへ^テ平^{ヒラ}向^ム梨^リ乃^ノと^ト

登^{ノボ}り^リの^ノあ^アら^ラう^ウの^ノま^マの^ノこ^コの^ノ水^ミ所^ト乃^ノ面^ヘ

年^{トシ}乃^ノみ^ミあ^アや^ヤあ^アら^ラう^ウ乃^ノ星^{ホシ}あ^アひ^ヒの^ノ雲^{クモ}乃^ノ

人^{ヒト}乃^ノあ^アら^ラう^ウ乃^ノ結^{ムス}乃^ノあ^アら^ラう^ウ乃^ノ秋^{アキ}

乃^ノあ^アら^ラう^ウ乃^ノあ^アら^ラう^ウ乃^ノあ^アら^ラう^ウ乃^ノあ^アら^ラう^ウ

乃^ノあ^アら^ラう^ウ乃^ノあ^アら^ラう^ウ乃^ノあ^アら^ラう^ウ乃^ノあ^アら^ラう^ウ

乃^ノあ^アら^ラう^ウ乃^ノあ^アら^ラう^ウ乃^ノあ^アら^ラう^ウ乃^ノあ^アら^ラう^ウ

乃^ノあ^アら^ラう^ウ乃^ノあ^アら^ラう^ウ乃^ノあ^アら^ラう^ウ乃^ノあ^アら^ラう^ウ

乃^ノあ^アら^ラう^ウ乃^ノあ^アら^ラう^ウ乃^ノあ^アら^ラう^ウ乃^ノあ^アら^ラう^ウ

乃^ノあ^アら^ラう^ウ乃^ノあ^アら^ラう^ウ乃^ノあ^アら^ラう^ウ乃^ノあ^アら^ラう^ウ

乃^ノあ^アら^ラう^ウ乃^ノあ^アら^ラう^ウ乃^ノあ^アら^ラう^ウ乃^ノあ^アら^ラう^ウ

乃^ノあ^アら^ラう^ウ乃^ノあ^アら^ラう^ウ乃^ノあ^アら^ラう^ウ乃^ノあ^アら^ラう^ウ

鷺

久々乃月の都の暇をきき光も
 君のめぐみかき 丈の君乃清代の
 ちる方機のみたつらとまかほよ
 して回まおころは遊遊もまきて終
 りらる敷ることりや 出ん書陽のま
 ころの 前どの花入の行幸

秋ハ時毎の紅葉狩 日暮もつる意
見乃行幸 寒暑のまをたぐは
ま 山遊のおも 時を待て 念ハ
夏と夕涼み 松のこゝろ
道はまをこれ踏あ 道はまを
清く行幸とて小車の直ち
道とめぐるまもねあ 雲井の大

ゆや神泉苑よ志なきりく
面白や孤鴻をたれて浪悠
たる粉ひまよと湖水よ笑あ
三千世界の眼乃前よつき十二因縁
心のうちよま 笑たも志なき乳
色く非 鶯のある池の行よ松
都よも山ぬ湯園の右

あはく君の清りぐみあはく心も
やまよは酒をすめて諸人の舞
樂をうらやみ酒の舞人の心
きそて柳の清感のあまりうす
たひもよあはく五位乃踏馬は心
あはくあはく立舞の
羽をうらやみ松もうらやみ

あはく君の恵ふ普くして
海よりあはく翅まであはくさ
あはくあはくあはくあはくあはく
威の恩徳とうあはくあはくあはく
あはくあはくあはくあはくあはく
あはくあはくあはくあはくあはく
あはくあはくあはくあはくあはく
あはくあはくあはくあはくあはく
あはくあはくあはくあはくあはく

歡進帳

上イナ
 文備松人これハ大忠教主の秋の
 月を涅槃樂の雲ふのれ生死長
 夜のちのき愛にともる人
 もね交の中帝にま
 清名を聖武皇帝少なつ
 我宛おしる婦人よりこれ急慕

やまのくさくさ 浄土眼 ありく 洞玉
を つくぬく 心ひを 台演ふ ちる 人
して 意遮 那仏を 奉立 せし かつ かつ
乃 鳥場 の 後 ちん 子 成 り 好 しく
俊 兼 坊 澄 源 諸 回 を 勅 せ たり
紙 半 鈔 の 字 數 の 案 あり 世 まで
ハ 比 乃 樂 小 ほ ころ せ 成 果 あり たり
教 十 蓮 華 乃 上 に 座 せん 佛 命 智
首 致 白 と 天 も 初 め を 乞 債 思 ころり

紀清文

教 白 紀 清 文 の 事 上 ち 梵 天 帝 報
四大天王 同 魔法 王 び 道 乃 冥 官
泰山 府 君 中 界 の 地 乃 伴 辨 天

聖火神を始ちりて伊豆箱根富士
海間熊野之所金峯山五城乃
積守福行祇園賀茂貴弘八幡
之而松尾平野惣ち日本國乃大小
の神祇冥道請一致るかしを於
殊よ八氏の神人多く昌俊討も小
みよるすむかし事傳ふ事あり

むけ物云言乃法四討とありあり
世ハ河鼻小墮罪きりれん者なり
よる紀清文斯のめし文治元
年九月日昌俊と讀しあり

願書
神命頂禮八幡人美菩薩ハ日城

朝廷の事至愚世明君の畏祖
たり寶祚を守らんが為生我
さきんり為る之身の人を容をあ
かして之所の権をばし
終へる友ふ志るるは年
く年相國と云者何れも四海を掌
に美民を懐乱きし是佛法

乃ある王法の敵を皇
前の陸奥守牙我宗廟の氏族
り帰階の義仲も其後
亂うして大功をたす
嬰児の蟲をくま巨海をたす
皇鳩の谷をまわして陸軍
むすめくも也志りれを君のお國

あまのこはをふらぬのこなり
て頼くは神の細文をれはひ勝
みをはなれあつとて方よ退を
あまの壽永二年あ月日た
かゝ讀あ



明和二年乙酉 林鍾

日本橋通壹町目

御書物師 出雲寺和泉掾

